Monthly Contents（月刊誌の主な特集記事）

デンタルダイヤモンド／2013．6月号

○実践歯学ライブラリー：日常臨床が変わる・変える歯科用レーザー
～機種別有効活用のポイント～（庄司　茂　他）

＊レーザーは多くの歯科医院で導入されていますが、知識、技術の問題で、診療室の片隅へと追いやられて“扱いにくい器材”となってはいないでしょうか？この特集では、歯科用レーザー有効活用の方策として、各種レーザー機器の得意な処置と臨床応用を解説しています。記載されている機器は、①CO2 レーザー　②Er:YAG レーザー　③Nd:YAG レーザー　④ダイアグノデント　⑤半導体レーザー　⑥ウォーターレーズとイージーレーズ。この特集を読むと、いろいろな種類のレーザーがきっと欲しくなると思います。

○歯科臨床　次の一手：コンポジットレジン修復の適材・適処④
長期耐久性を得るための臨床的ポイント（秋本　尚武）

＊コンポジットレジン修復が始まったころには、レジン材料やトータルエッチングの歯髄刺激性が問題になっていましたが、現在ではレジン充填は正しい手法で行えば、良好な長期予後が得られることが明らかになっています。しかしながら、良好な予後を得るためには注意が必要であり、本特集ではその注意点を記載しています。１．器材の保管方法とメインテナンス（①材料のチェック　②光照射器のチェック　③取り扱い説明書の熟読）２．治療中の注意（①丁寧な接着処理　②十分な光照射　③ＣＲの積層充填）３．治療後の注意。一読をお勧めする内容です。

歯界展望／2013．6月号

○若年者の外傷歯における接着修復の有用性―緊急時にどのような処置を行うか―
（福岡県開業　荒木秀文）

＊若年者の外傷歯は、たとえ破折範囲が大きく露髄を伴う場合でも、安易に抜髄をして補綴処置に至るのではなく、できるだけ低浸襲性の治療法を選択するべきであろう。現在、審美性の高いコンポジットレジンが多くあるので、これを利用した処置方法を緊急レベルに応じた対策を含め述べている。

○ペリオの処置方針をどのように考えるか２　エンドペリオ病変への対応
（東京都開業　清水宏康）

＊日常診療において、エンドペリオ病変に遭遇する機会は多いと思われる。疾患の成り立ちから、原因を診断し、予後判定を行わなければならない。この診断基準、判定基準の根拠をのべたうえで、実際の治療したケースについて、写真もふんだんに載せて報告している。

ザ・クインテッセンス／2013．6月号

○特集１　イラストで見るペリオドンタルメディシン―2013 年の現在，どこまでわかっているのか―

＊1990 年代後半に米国発のペリオドンタルメディシンが登場し「歯周病が全身疾患に与える影響」の観点から様々な研究が行われ，裏付けや否定するエビデンスなども報告されるようになった。この企画では、最新のペリオドンタルメディシンの知識をできるだけわかりやすく、患者への説明などにも活用しやすい形で示されている。呼吸器疾患（沼部幸博）血管障害（高柴正悟）糖尿病（西村英紀）早産・低体重児出産（和泉雄一）骨粗鬆症（稲垣幸司／野口俊英）

○特集２　超高齢化社会～変わりゆく歯科口腔機能回復を通じて社会参加を支援しよう！（舘村　卓）

＊訪問診療時に経験するのは、「義歯を作ってほしい」「歯科治療してほしい」であるかもしれないが、状況や障害の程度に応じて必要な歯科的介入は大きく異なる。要介護度の高い人たちへの口腔機能回復を通じて生活復帰を支援する歯科医療については教育も現場も経験に乏しい。今後求められる歯科医療は従来型ではなくまったく新たなものであることを認識し、他職種連携をとる必要がある。本稿では、長期寝かせきり、非経口摂取の場合や口腔清掃・食事介護の注意点なども詳細に示されている。

日本歯科評論／2013．6月号

○特集／1 つ上を目指す歯内療法へのアプローチ (III)
歯内療法における偶発症への対応 (2)（吉岡隆知 池田英治 他）

＊日常臨床でよく遭遇する歯内療法におけるトラブル第２弾。今回の内容は、垂直性歯根破折、歯内療法に関与する神経損傷時の痛み、歯内療法における薬剤の溢出（押し出し）、ビスフォスフォネート製剤投与患者に対する歯内療法の注意点についてです。特に垂直性歯根破折については臨床でよく見られるトラブルで、発生のメカニズムから診断、予防法まで述べています。あとの内容についても頻繁には起こりませんが、遭遇した方は少なくないのでは。トラブルを避け、起こった時はどう対応するか、必見です。

○新連載／すれ違い咬合への対応――足す歯列改変か？ 引く歯列改変か？
1. 欠損歯列を対向関係でみる（須貝昭弘）

＊すれ違い咬合の治療は難症例になることが少なくありません。特に臨床経験の浅い歯科医師はどう対応していいか迷ってしまうことが多いのではないでしょうか。この連載は欠損歯科治療の基本となる対向関係の見方を解説し、すれ違い咬合への対応について考えていくというコンセプトです。すれ違い咬合について今一度整理していくにはもってこいの内容です。